夕刊
磐城新聞
十二月二十七日發行
定價　一ヶ月金六十五錢　[illegible]
廣告料金　[illegible]
編輯印刷兼發行人　柏木[illegible]
發行所　磐城新聞合資會社
[illegible]
（日曜祭日翌日休刊）

文學と童話文學

野村吉司

四

もし同氏が童話作家であつたとしたら、良心を持つて居る彼は決してそんな事はしなかつたらう。だが同氏は童話作家でなく、作家であつたのである。坪田氏は從來童話作家でなかつたのにもかゝはらず、單にその取扱ふ題材から自他を誤つて童話作家として通用してゐたのだが、今やその誤りを訂正して作家に還元したのである。然し客觀的童話作品をしか書き得なかつた氏が、作家としてそれ程すぐれた作品を突然制作されるとは思はれない。なる程、文壇的には一時その童話的形式と題材とを珍しがられるかも知れぬが、歸する處未流作家以外の何ものでもないであらう

×

坪田氏の場合と正反對の立場にある作家に小川未明氏がある。筆者は約十三四年昔、雜誌『中央公論』に書いたプロレ作家評の中で小川未明氏を極端に惡口し攻擊したことがある。勿論氏の作品に就てではなく、當時ようやく隆盛に向ひつゝあつたプロレ文學陣營に於ける氏の大御所的位置に對してであつた。小川氏はその一文の爲のみではなかつたらうが、作家としての氏から、童話文學作家としての氏に還元してゆかれたのである。さうして氏に於ては本質的に童話文學作家であつたのである。大人の作家としてそれまで存在せられた氏の誤りを正しく訂正されたものと言へるだらう。しかもそれは大へん立派なことであつた。文學者として氏がすぐれてゐたのは、すぐれた童話文學者であつたからである

おつむかり

山田晴夫

チョキ〳〵　チョキ〳〵
おつむかり
こないだ　かつたは
いつだつた

あしたまつりと
いふばんよ

チョキ〳〵　チョキ〳〵
たつむかり
おてらの　ぼうずに
まけぬよな
くり〳〵ぼうずに
かつてやろ

チョキ〳〵　チョキ〳〵
おつむかり
ぼうやは　よいこだ
たひさまよ
すこしは　いたうても
なきませぬ

贈松原君歸隱

珠雲　小野務平

胸肚海涵淸濁呑
德磐高還友情敦
就聞今日饒風月
只合吟哦頌帝恩

晩秋

松本勝雄

○プロペラの音にあふげば飛行機の銀の光りて分列飛行

○

永山忠治

○宵更けて風吹きやみし靜けさに夜學かへりの下駄の音さゆ

○殘り葉の風に鳴る靑の冷え冷えと山そひの徑は月に凍れる

○炭燒きのけむりけぶれる雜木山の月の夜ふけを樵夫は樹を切る

新年短歌募集

一、新年に因める歌　三首　新妻久滿男選
一、勅題『海上雲遠』一首　高久晩霞選

新徒然草（しんつれ〴〵ぐさ）

室生貞信

三

良寛かつて富貴の某家に泊す。絹布の蒲團のいとやはらかくして寢苦しきまゝに、ほのかなる行燈の光に床の間を見れば、一つの掛軸ぞ目につきける。應擧の筆にて犬三匹戯るゝが下の方にかゝれて、上の空白餘りに淋しくぞ見ゆける。その上空を滿たしたき衝動に驅られて、慾心かきたて、墨磨りなどして、その掛軸に讚をかきにける

今その畫を見るに、天地の開きは美學の法則に合せ、その字の持つ藝術的迫力の廣がりは、應擧の犬を壓して輝き渡りたり。見事といふべし

良寛の文字を學びて、良寛より巧みに書く人はあり。されどもその藝術的香氣に至りて遠く及ばざるは何ぞや。今の世の人の正に三思すべき事どもなり

○

本家に額一つ欲しと思ひ學德並びなき老僧正に、さしたる縁はなかりしが、厚かましくも書面にて願ひたるに、直に書き送り呉れたり。手紙の返事すら中々に認め難く、便りすべき方も怠りて日を過しつる我が身恥かしく、僧正の振舞のいと有難く覺えたり

○

丹波に住む若き僧よりその新婚の寫眞を送り呉れたり。見れば寺の庭と覺しき處に、友は道服輪袈裟にて左手に珠數持ちて立ち、新しき妻なる人の腰かけてよりそへる左手にもつゝましく珠數かけられたり。僧侶新婚の寫眞はまことにかくありたきものと思ひたり

その日〳〵

12月28日

△江戸大火（天和二、享保二、安政元、明治二）△旅順包圍軍二龍山堡壘占領（明治三七）△植田の仕込娘酷使に耐ねず平署に泣き込む（昭和九）

○

冬の夜の炬燵にあたりて無駄噺に興ずる——殊に若くうるはしき女の居るは心はずむで和やかなものだ

講談

黄金魔刄

(39)　高桑義生作　樋口悦也畫

噂　（一）

玉虫權六——千里眼の名は無賴の徒をちぢみあがらせた、いはゆる名與力。元來江戸の生れだが、長崎に來て二十年。ぜひこの土地になくてはならない男になつてゐる。配下の目明し藤兵衛は生ねぬきの長崎ッ子、あだ名を剃刀、よく切れるからだ。この二人、かうも肌のあつた組合せがあるかと思ふほど、よく氣があつた。水魚といふのは二人のために出來た言葉かと思はれるくらゐ、階級的差別をはなれ、はたの見る目もうらやましいほど仲がよかつた

その夜、島原屋の事件から四日目、藤兵衛は權六の屋敷に飛んで來た

『旦那、ばかにしてゐるぢやありませんか、土屋様のお役宅でお目附はじめ與力同心の方々、內々でお召しになつて島原屋の一件を御評議なすつてゐる、旦那は一體と[illegible]なすつたんです?』

『あはゝゝ……見る通り俺は膝をかゝへて虫の音を聞いてゐる』

『ちえッ、相變らずだ、張合のねえのも夥しいや。旦那はそれで腹がたゝねえのですか？　あんた一人がのけものにされてゐるんですぜ』

『さうらしい、で悠々閑日月、すがれた虫の音もまたひとしほといふものだ』

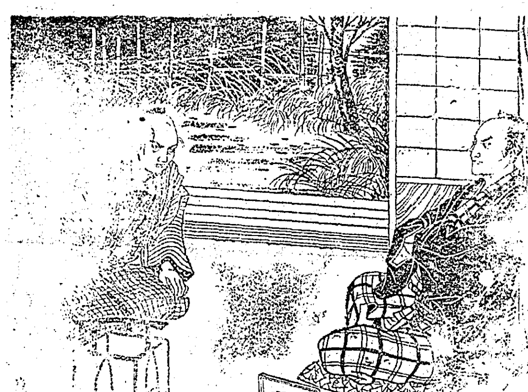
『ちえッ、こつちは虫の居どころが惡くてたまらねえんだ。たわ言もやすみ〳〵いつて貰ひてえ、そもそも旦那が出ねえで、どんな話がまとまるつてえんだ。あんまり譯がわからなすぎてヘン涙がこぼれらあ』

『藤兵衛、考へて見ればそれも當然、なあ今度のわしの失策だ……』

『そ、それをいはれるとおいらの立つせきがなくなる、ありやアわつしの落度だ。それはそれ、これはこれ、別ものだ』

『さうはいかね。お前も俺も同じものだ。結局わしの手ぬかりだ。土屋様の代になつて最初の仕事がこれでは御信任がねえのも無理ではない』

『だつて、そりやアいけねえ。大違ひをしたのはこの藤兵衛……』



『ウフ、、……まだ同じ事をいつてる、まあいゝぢやないか、落度には違ひないがまんざら無辜の人間を取りおさへたのぢやなし……』

『たうとう口を割りましたか?』

『いや、恐らく彼等殺され る[illegible]でも口をあくまいよ、そこだ、そこがよく〳〵の秘密をもつてゐる、重大人物だ』

『だが、どうでも口をあかねねとしたら、手のつけようがありますまい』

『ウム、藤兵衛、もそつと寄れ』

『へえ』

『とにかく早急に口をあかせる手段はない。とすると、いつまで入牢させて置くわけにはいかない。差支へないやうなもの〻……』

『御尤も』

『で、明日にもあの二人を放免する。彼等に罪はない、疑ひもないすべてわしの目違ひ、落度にしてしまふ』

『そ、そんな、それぢやア……』

『まあ聞け。どうせ人違ひをしたわれ〳〵、そのくらゐの恥のうは塗り、汚名は甘んじて受けろのだ』

『ちえッ、殘念だなあ』

今日まで、一度の目違ひ、見こみ違ひがない、さればこそ千里眼の權六、異名でも名譽の名だ——それを一ぺんに落してしまふ

『しかし權六はきつとそれを取りかへす。破獄人はきつと取押へて見せる。そればかりぢやない。あの二人の秘密、正體をきつと看破つてくれる』

聲はひくいが、異常な熱意がこもつた

『なんだかお前腑におちない顏つきだな。いゝか、赦された二人、何處へ行く？　嬉野の湯か、とにかく行く處へ行くにちがひない。そこで彼等のあとをつけ[illegible]!』

『おッと、わかつた』

藤兵衛、景氣よく手をあげた

廣告

松村醫院
院長　松村鐵郎
平町南町電一〇七

着荷致しました
呼吸疾患救濟の王……
陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學專學校門御用
吸入用酸素
體溫計（メートルグラス）
御用命次第迅速に御屆け致します。
平町古鍛治町縣社ノ下
處方箋調劑所
阿康藥局
電話四四番
振替口座東京三〇〇五

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備
自炊ノ便アリ
山內醫院
醫學士　山內亨吉

產科　午前宅診
婦人科　午後往診
花柳病科　入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

流行ノ下駄ト草履ハ
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店
電話一八一番
（小僧さん入用）

皆様お待ち兼ねの！—
歳末大奉仕大賣出し
十二月二十五日ヨリ
二十九日マデ
㊣中野洋品店
平二
電五三
超特價奉仕

名湯
鹿の湯
湯之網鑛泉
二百餘年の昔、病める鹿が浴してゐたといふ鑛泉!!　昭和の今もこん〳〵と溢れ湧いて、バスを降りれば半里位の山間に、美しい風光と共に、浴客をお待ちして居ります。
效能……神經衰弱、神經痛、リウマチス、胃腸病、子供の蟲氣、婦人病
○平町から日歸り御入浴もラクです。
○關本驛、磯原驛からバスの便あり。
○關南村役場で、御案內致します。
○自炊なさる諸道具ととのつてゐます。
茨城縣多賀郡關南村湯之網
元湯　松屋旅館　赤津さよ
（女中募集）
◎御滯在、團体は割引致します。

急告
豆タク！豆タク！豆タク！の出現
秋のドライヴに、商用に
迅速　市內　三〇錢
低廉　市外地　普通料金四割引
鈴木自動車豆タク部
四丁目　電話二一七

魚は三ツボシ[illegible]
日本水產[illegible]
卸　小賣
平[illegible]會社
電二二八・三六番
鯛　銀鯛　平目
エビ　甘鯛　目拔
白魚　芝エビ　鮭鱒
ワカサギ　貝燒　其他
ヒノマル[illegible]魚
代理店　四丁目
ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

愈々僅かに中四日
濃度を増す師走氣分
粉雪の街に慌しさは漲る

師走末の七日。愈々僅かに中四日である。新藁の注連賣る店先にゆずり葉を堆高く積んだリヤカーが止つて小刻みに行く人を阻み、山程の荷物を載せた荷馬車が織るが如き自動車の交叉を妨げてゐる。暮れ氣分の象徴は人の足、車、車の慌しさで眞つ晝間に何事ぞテールランプ赤々と點けた儉つて行く豆自動車など妙に人を焦立たせるものがある。弗々立て始められた門松に粉雪が降りかゝり救世軍の女士官が大鍋を腕に掛け、けふの戰場さして行き、水無き魚河岸の四丁目附近には鮮魚の街の引に溜み聲と金切り聲と交錯しそれにレコードの音り出しに必死の電氣蓄音器が嵐の交響樂を渦卷かせてゐる。店頭遠く鋪道に迄商品の進出も暮れと正月には其筋でも寛嚴宜しきに適ふわけか、趣向を凝らしたバーゲンセールの装ひも今や殆ど立派に出來上つて何事のたゝずまひにも、もう正月が目前に迫つた事を物語つてゐる

高久の銘釀
六縣品評會に
小錦、福鶴特選

地方の清酒醸造界は當局の指導と各當業者の自覺により逐年向上の域を進み各方面市場に聲價を馳せつゝあり、嚢に仙臺稅務監督局に於て開かれた東北六縣清酒醬油品評會では左記の如き優秀な成績を收めた

（特選）清酒小錦（高久村鈴木喜太郎）清酒福鶴（同上本馬佐源次）

同人制度に
美友會
陣容樹て直し
大に捲土重來を期す

地方繪畫同好者より成る美友會は磐中關係のX會並に白鴉會と鼎立し磐陽の天地に斷然美術王國を築き毎春秋開催する展覽會に多大の人氣を唆つたゐたが過般高瀨勝男氏らの脫退についで最近副會長酒井英吉氏が磐女教諭辭職と共に退卒した等の事情から會務は擧げて會長近藤磐中教諭に於て處理せねばならず公務上多忙な氏として餘りにその負擔が過重になる樣な事情から今回之を解散し同人制度に新陣容を整へ引續き斯道の爲精進する事になつたと

零碎な金を募つて
尊き靈と遺族を慰む
遭難四艦乘組將士七十餘名の爲に
愛婦平、湯本兩分會の活動

愛國婦人會本縣支部では去る九月廿六日本州東方で折柄の颱風と激浪とを冒して演習中の第四艦隊驅逐艦初雪、夕霧、睦月、菊月並に航空母艦鳳翔の乘組員七十餘名が風浪にさらはれ遂に非常時海軍の犧牲となつたのに痛く同情しその英靈を弔ひかつ何等の恩典に浴することの出來ない悲境にある遺族に救ひの手を差しのぶべく縣下愛婦分會に飛檄廣く同胞にうつたへて弔慰金の募集中であるが既に送付濟みの郡下分會は

△三十九圓平町　△七十圓湯本町

でこれら分會では愛國婦人會員が一齊に起つて銃後婦人の赤誠を披瀝すべく風雪にもめげず每戶を歷訪喜捨を乞うたものであると

不合理も甚しいと
引下運動に起つ
昨日町會で委員を擧ぐ
火保料率

平町の一般火災保險料率は現在千圓に對し十一圓で他地方に多い八、九圓程度に引下ぐべく過般來運動を續けてゐたが昨二十六日の町會終了後酒井、馬目雅、根本品、吉田寅の四議員から消防施設優良を認められて優良旗を授與され水道の增設工事完成等で今や何等不安を感じないのに高率保險料を徵せらるゝとは獨り契約者の苦痛のみでなく本町經濟に及ぼす處重大なる動議を提出、滿場異議なく贊成、議長指名で左の如く運動委員を擧げ近く關係筋に引下の猛運動を起す事となつた

酒井　馬目雅　根本品
吉田寅　萩原　野崎　井上

町長以下吏員の賞與
けふバラ撒かる

平町役場では明二十八日の御用納を前にして今二十七日一齊に年末賞與をバラ撒いた

町長の慰勞金は昨二十六日の町會で昨年より百圓增の六百圓、助役が二百圓、町會井上議長百圓、野崎副議長五十圓一般吏員七十九名の書記級（三十一名）から均八割、雇級か六割見當でこの額ザッと二千餘圓、あすの御用納めには一部の昇給、昇格等が發表される筈

佐藤代議士
歐米視察談

神谷村では一月一日午後零時半から同村小學校に佐藤庄太郎代議士の歡迎會を開き終つて歐米視察談をきく

凶作騷ぎをよそに
豊年振りを漂はす
昨日高久で貯穀式

高久村では下高久生、同下神谷作、出口以上四個所の鄉倉を有し將來の統制ある利用厚生を期待されてゐるが昨二十六日一齊にその貯穀式を擧行し目下夫々搬入中で他方面の凶作騷ぎをよそに賑やかな豊年振りを漂はせてゐる

第二受驗生
父兄懇談會

平第二小學校では今二十七日午後二時から受驗兒童の父兄を招き懇談會を開いた

同校から磐女その他高女校に進學せんとする受驗生は尋常六年九十九名、高等科一年三十名、同二年三名、計百三十二名で例年の合格率は七〇%前後であると

。。。。。北白銀區長再選　平町北白銀町區長は昨二十六日の町會で小野金太郎氏再任、同代理は有賀幸太郎氏に決定

佐藤第一
訓導渡滿

平第一訓導佐藤發介氏は此程滿洲國ハルビン第二小學校訓導を拜命、來る三十一日出發することになり今二十七日同校では告別式を行つた

同氏は縣下青年並に教員スポーツに鳴らした猛者で縣大會記錄二つを保持地方スポーツ界の立役者であつた

。。。。。山本一男君入營　平町北目町八山本一男君は一月十日小倉第十二師團步兵第十四聯隊に入營のため四日平驛發より午前九時で出發する

國寶無事
阿彌陀堂傍の
願成寺に小火
納骨堂九坪を燒失
原因大体推測つく

二十六日午後六時半頃內郷村大字白水字廣畑一一九願成寺（住職赤土興榮師）の納骨堂から發火直に附近消防組が馳せつけ約九坪を半燒鎭火した、損害三百餘圓、原因は燒香或は燈明の火が造花に延燒したものらしい、尚當日は此程落磐で死亡した同村壽炭礦坑夫三名の慰靈祭があり多數燒香したもので附近には國寶白水阿彌陀堂がある事とて一時は大騷ぎだつた

十四娘を辱めた
內郷村の痴漢起訴
直に豫審に附さる

內郷村宮生れ遊藝人竹田德次郎（三四）が茨城縣生れ當時郡山市驛前若葉旅館止宿中の同業者の娘中村たけ（一四）に暴行を加へた事件については二十六日福島檢事局の高橋檢事係で取調べの上起訴され豫審に附された

新山の不敬漢に
懲役三年を求刑
けふ平區で第二回公判

双葉郡新山町前田字前河原二二居住無職井戶川正雄（二九）がおそれ多くも同町小學校奉安殿から御眞影を搬出し奉り小學校長を恐喝した不逞事件第二回公判は今二十七日午前十一時から平區法廷で中島判事係り清田檢事關與で開廷、十二月六日第二回目の金を取りに出た際、埋沒個所から五、六間先で引返し附近の井戶で水を飲み歸つたのは附近に警官らしい氣配を感じ逃れん爲の芝居でなかつたかと判事に突き込まれ正雄は氣配は感じなかつたが既に大それた罪から觀念して居り殊更に駐在所の前を通つて歸宅した

とガックリ首をたれて、か細く素直に述べ、實地檢證調書、富塚校長の訊問書を聞かされ一切を從順に認めた、檢事は御眞影そのものには手を觸れず無事に奉還出來たのが何より有難い、神聖なるべき御眞影を林野に捨て剩へ世の師表たるべき教育家を恐喝したのは惜くべきだ、正雄が病身不具で世に容れられなかつた點は斟酌するとて懲役三年を求刑した、判決は明二十八日午前十時

電燈で屋內を窺ふ
內郷村宮地內の不審男
數件の盜みを自白

昨二十六日深更內郷村大字宮字代六八石川德之助方を小型懷中電燈でてらしてゐる擧動不審の男あるを歲末警戒中の平署員が調べると右は東京市目黑區上目黑四丁目忠治長男吉田忠雄（二九）と云ひ今月上旬頃から郡內に流れ込み內郷村竹の內磐炭役員合宿所根本林平方に忍び込みクローム腕時計、オーバ、チリメン等を竊取したのを手始めにその都度盜んだ品で變裝等をして衣類、現金等を專門に盜み廻り贓品は何れも湯本町三函質屋江尻タツ方へ入質遊興に費消してゐた事自白した

。疫痢　平町一丁目高藥玲子（三）さんは二十五日疫痢と決定自宅治療

平區略式一束

。失火　豐間村豐間字八幡町七農遠藤俊雄（四二）は去月五日午前七時半頃物置內に藥仕事に使つた提灯を置き忘れて失火、全燒

。妨害　双葉郡久ノ濱町久ノ濱字北町四四鈴木惣七方農鈴木金次郎（一九）假名は去月十五日午前七時頃稻架用木材を擔いで大久川鐵橋を渡り折柄進行して來た急行列車を急停車せしめ何れも罰金二十圓

。傷害　平町新川町九林長三郎（一九）假名は去月中同町六[illegible]內道路で同町丸山房太郎を毆打、要一週間の裂傷を與へ科料十圓

。盜電　錦村中田昭和人絹會社々宅阿部茂方職工佐藤吉太郎（二四）は十一月上旬頃電氣焜爐使用のコードを無斷で引用、罰金四十圓、何れも此程平區より略式命令された

若妻咽喉を刺す
家庭の不和を悲觀か
入院中生命危篤

湯本町三函一六〇鐵道員安住正積內妻和田ヨシイ（二四）は二十六日午後六時頃亭主の留守中はさみ樣の兇器で咽喉部をつき刺し苦悶中家人が發見直に入山病院にかつぎ込み應急手當を加へたが生命危篤であると、同人は夫との間に二人の子供あるが近頃兎角家庭內に面白からぬ空氣が漂ひ、常日それを苦に病んでゐたとの事で思ひつめての結果らしいと

二十八日（小名濱測候所調査）

日出 六、四五　月出前 八、三二
日沒 四、三一　月沒後 七、一四
滿潮 前六、五〇　後四、五〇　干潮 前一〇、三〇　後一一、五〇

六
一
二
三
四
五
七
八
九
北

舊十二月三日
土曜　戊寅　友引　滿　胃宿
新十二月廿八日

鑑判定應需
東京市本鄕區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白　人の先に立たんよりしばらくは先をゆづりて進め▲二黑平捧の棒をつえとして難路を越ゆる覺悟が吉▲三碧　諸事意の如く成らざるのみならず再起困難▲四綠お先走りて他に迷惑を及ぼす事ある危險日▲五黃　頭角を現はす日上下內外の親和厚かるべし▲六白從前よりの方針を改めず直進すれば功成る▲七赤　利じゆん大に擧る日計畫を立て新春の活躍に吉▲八白　氣を締め心をくゝりて萬事に當れば滿足を得▲九紫　地位に不安を生じ意見も用ひられず不安日

廣告

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

安齋外科醫院
平町田町
電四七五番

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

平町新川町
木村病院
電話一六四番

平町六丁目
木村外科醫院
電話三〇九番

吉田眼科病院

精神病科
腦脊髓病科
神經病科

郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

謹告

店舖新築中に付永らく御不便を相かけ申し居り候處今般愈々改築相成候に付從前通り營業仕るべく候間何卒舊に倍し御引立ての程伏して懇願仕候　敬具

十二月二十六日
大床　石崎幸一
各位

母ミサ病氣ノ處藥石効無ク廿六日午後四時永眠致シ候ニ付此段御通知申上候
追テ葬儀ノ儀ハ廿九日午後一時自宅出棺性源寺ニ於テ佛式相營ミ可申候
昭和十年十二月二十七日

男　大原寅二
親戚　加藤丈夫
高橋龜松
總代　佐藤軍作
大原榮三郎
友人　鈴木義忠
加藤正保
總代　大塚八郎

新年 忘年 御宴會

…サービス自動車…
團体廿人樣以上にはお迎ひの自動車を差上げます。（北は平町・南は植田町まで）

每度格別の御贔屓いたゞき難有く御禮申上げます。愈々年末新年の御宴會季節と成りましたので忘年會・新年宴會の御下命賜り度。團体樣にに徳用な下記弊館御宴會規定を精々御利用下され度御願申上げます。

松印	3.50	御會席七品付（外果物。御飯香物）藝妓花代。御酒。入浴料。サービス料	共一式
竹印	3.00	御會席六品付（外果物。御飯香物）藝妓花代。御酒。入浴料。サービス料	共一式
梅印	2.50	御會席五品付（外果物。御飯香物）藝妓花代。御酒。入浴料。サービス料	共一式

但十人樣以上ノコト　藝妓ハ五人樣每ニ一人二時間（松印ニ限リ半玉十人樣ニ一人付）御酒ハ御一人銘酒二本ヅヽノコト

◎お申込みは時節柄なるべく至急下記へ

お問合せは　電話（小名濱）103番
通話料は弊館にて負擔いたします。

小瀧鑛泉　瀧乃湯旅館
電話103　割烹部